CRÉDIT AGRICOLE S.A.

本書は、英語によるCrédit Agricole SA 2013 年度第1四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2013年5月7日　パリ

2013年度第1四半期業績結果

中核事業の収益、利益は堅調

2013年度第1四半期のクレディ・アグリコル・グループ*

既存社債の再評価とCVA/DVAを除く純利益グループ帰属分: 12億8,700万ユーロ

純利益グループ帰属分: 10億2,500万ユーロ　（前年同期比+18.7%）

コア・ティア1レシオ: 11.0%

バーゼル3完全適用後CET1レシオ: 9.6%**

* クレディ・アグリコルS.A.と地域銀行100%。

**クレディ・アグリコルS.A.の計算による2013年3月末現在のCRD4規制に基づく数値。経過措置の適用前。

2013年度第1四半期のクレディ・アグリコルS.A.

事業部門の収益: 48億ユーロ（前年同期比-9.0%）

既存社債の再評価とCVA/DVAを除く純利益グループ帰属分: 7億2,600万ユーロ

純利益グループ帰属分: 4億6,900万ユーロ（前年同期比+50.8%）

コア・ティア1レシオ

金融コングロマリットに関する暫定的規制前9.7% (+50bp)

暫定的規制適用後8.5%

クレディ・アグリコル・グループ*

2013年度第1四半期のクレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は、既存社債の再評価とIFRS第13号（CVA：Credit Valuation Adjustment；信用評価調整とDVA：Debt Valuation Adjustment；債務評価調整）を除き12億8,700万ユーロでした。これらの項目を含めた場合、同一基準の下で純利益グループ帰属分は 2012年度第１四半期の8億6,300万ユーロに対し、10億2,500万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコルS.A.の会長ジャン・マリ・サンデールは、「2013年度第1四半期の業績結果は、顧客重視型ユニバーサル・リテール・バンキングの当社の経営モデルと実体経済へ金融サービスを提供する当グループの変革が有効に行われていることを示しています。」と述べました。

またクレディ・アグリコルS.A.のCEOジャン・ポール・シフレは次のように述べました。「今回の業績結果によって、リテール・バンキングのビジネスが当社の経常利益の基盤となっており、極めて重要な役割を果たしていることを確認しました。リテール・バンキング、資産管理、保険部門は当グループの事業部門の収益の78%、純利益の85%を占めています。」

ソルベンシーは、2013年3月31日現在のコア・ティア1レシオが11.0%でした。これは、保険会社への

持分の取扱いが変更された影響を受けていますが、2013年末までに完全適用されるバーゼル3上の我々の目標値である10%に沿った数字となっています。

クレディ・アグリコルS.A.

2013年度第1四半期の業績承認のために、2013年5月6日、ジャン・マリ・サンデールを議長とするクレディ・アグリコルS.A.の取締役会が行われました。

既存社債の再評価とIFRS第13号（CVA/DVA）の適用による影響の控除前純利益グループ帰属分は7億2,600万ユーロに達しました。これらを調整項目として含んだ場合の純利益グループ帰属分は4億6,900万ユーロでした。これらは新しい会計基準の適用による変動的な要因によるもので、それ以外には特殊要因による業績への影響はありませんでした。

クレディ・アグリコルS.A.のCEOジャン・ポール・シフレは、「景気の低迷が続く中での当期の業績結果は、当グループの中核的ビジネスの収益、純利益の伸びが堅調であり、リスク関連費用が引き続き抑えられ、費用が着実に減少していることを反映しています。」と述べました。

2013 年度第 1 四半期のリテール・バンキングは力強い業績を達成し、オン・バランスシートの顧客預金残高は前年同期比で 5.5%増、グループの支店ネットワーク全体（地域銀行、LCL、海外の銀行）の貸出残高は 0.5%増となりました。さらに、資産管理部門（アムンディとプライベート・バンキング）と保険部門は、当期中の新規資金流入純額は 140 億ユーロとなり、また市況回復によって両部門資産の含み益にポジティブな影響を受けたことにより堅調な事業展開を見せました。これらの事業の総収益は、2012 年度第 1 四半期比僅かに 1,500 万ユーロ増加しました。

消費者金融部門と CIB（法人及び投資銀行)部門の収益は、2012 年度第 1 四半期比減少しました。これは 2012 年 12 月に完了した事業適応計画の影響によるものです。2013 年度第 1 四半期の両部門の収益は、事業規模を計画的に縮小させたことと、債券市場が 2012 年度第1四半期ほど活況でなかったことによる影響を受けました。

リスク関連費用は引き続き全体的に抑えられました。年率では部門残高の 68 ベーシス・ポイントとなり、2012 年度第 2 四半期と第 3 四半期とほぼ変わらず（それぞれ 64、60 ベーシス・ポイント）、アゴス−デュカト（Agos-Ducato）の引当金を積み増した 2012 年度第 1 四半期と第 4 四半期よりも低い水準になりました。2013 年度第 1 四半期のイタリアの消費者金融子会社の引当金（2 億 3,200 万ユーロ）は、2013 年の年度予想と合致した水準に戻っています。リテール・バンキングについては、LCL ではリスク関連費用が 2013 年度の想定水準となり（2012 年度第 1 四半期の 34 ベーシス・ポイントに対し 37 ベーシス・ポイント）、またカリパルマでは 2012 年度第 4 四半期と比較して減少しました。CIB のリスク関連費用は 28 ベーシス・ポイントと極めて低い水準を維持しており、与信関係費用の殆どは一般引当金に当てられています。

営業費用は2012年度第1四半期と比較して減少しました。第1四半期に課税額が前年同期比2,500万ユーロ増加する中で、営業費用が減少したことは極めて重要です。当期中の費用の有機的減少額は1億2,500万ユーロ、当期の費用ベースの-4. 2%に相当します。この減少に寄与した主な事業部門は専門金融サービス部門とCIB部門で、事業適応計画のガイドラインに沿った人員削減はそれぞれ5%、

11%でした。費用は、MUSTプログラムの段階的導入により今後も引き続き削減されます。MUSTプログラムは、主に3つの分野（IT、資材の調達、不動産）における最適化を図ることで、2016年までにクレディ・アグリコルS.A.の営業費用を6億5,000万ユーロ削減することを目標にしています。

ソルベンシーでは、クレディ・アグリコル S.A.が引き続き本源的な比率を強化しました。第 1 四半期に実施されたエンポリキの連結除外により、クレディ・アグリコル S.A.の 2013 年度 3 月末現在のコア・ティア 1 レシオは、当初 2012 年 12 月末時点比で 0.5%上昇する予定でした。しかし、2013 年にはバーゼル 3 導入に備えて金融コングロマリットに関する暫定的規制が適用されたため、コア・ティア 1 レシオに −113 ベーシス・ポイントの影響が生じ、その結果 8.5%となりました。これは 2012 年度の決算報告で発表された Switch の延長を反映しておらず低い数値となっていますが、2014 年からはバーゼル 3 が適用されます。

クレディ・アグリコル・グループの流動性ポジションは引き続き強化されています。2013 年 3 月 31 日現在の当グループのバランスシート上の現金（銀行部門）は 1 兆 480 億ユーロに達しました。長期の運用資金に対する長期の資金調達の超過額は 2013 年度第 1 四半期末現在 480 億ユーロでした。手元流動性準備金は短期の市場調達額を十分にカバーしています（165%）。さらに、2013 年 3 月末現在、クレディ・アグリコル S.A.は中・長期債発行プログラムの年間設定額が 120 億ユーロであるのに対しその 45%を実施しています。また当グループの支店ネットワーク経由あるいは追加資金調達により専門金融子会社が調達した第 1 四半期の発行額は 40 億ユーロに達しました。

社会的・環境的責任：新たな動き

銀行セクターにおいて採用のリーダー的役割を担うクレディ・アグリコル・グループは、男女平等の促進に強くコミットしています。2 月に、当グループは「クレディ・アグリコル Louise Tallerie 女子学生賞」を設立しました。これは 1921 年に地域銀行の運営にあたった初めての女性の名前に由来して設立された賞です。その目的は女性エグゼクティブを増やし、従来の社会通念に挑戦し、創造性を活性化し、当グループの従業員の意欲を引き出すことにあります。400 名の応募の中から 80 名が最終選考に残りました。80 名は当グループの 4 つの戦略上重要な分野（住宅、ヘルス・ケアと高齢化、省エネ、環境）から一つを選んで独自の革新的なプロジェクトを提案します。

最終的な受賞者達は、当グループのシニア・マネージャーから 1 年間の社内指導を受け、ワーク/スタディ・プログラムに参加し、さらに 1 名につき 3,000 ユーロの助成金を受け取ります。

カリパルマ・グループは15年間連続で「Top Employers Italy Award」を授与されました。この賞は、オランダのリサーチ機関CRFの調査に基づいて授与されもので、「企業における人材管理」の分野でのイタリアのリーダー的企業を表彰します。CRFは人材管理で5つの基準をもとに調査を行います。それらの基準とは、報酬、労働条件と各種手当、企業文化、トレーニングとキャリア開発です。「Top Employers」によると、企業文化、多様性の重視、継続的な社会へのコミットメントの分野で、カリパルマ・グループは卓越していると評価されています。

決算スケジュール

2013 年 5 月 23 日	年次株主総会
2013 年 8 月 6 日	2013 年度第 2 四半期決算発表
2013 年 11 月 7 日	2013 年度第 3 四半期決算発表

クレディ・アグリコルS.A.連結決算

(in millions of euros)	Q1-13	Q1-12 *	Change Q1/Q1
Revenues	3,853	5,219	(26.2%)
Operating expenses	(2,879)	(2,984)	(3.5%)
Gross operating income	**974**	**2,235**	**(56.5%)**
Cost of risk	(765)	(943)	(18.9%)
Operating income	**209**	**1,292**	**(83.9%)**
Equity affiliates	347	415	(16.2%)
Net income on other assets	20	(5)	nm
Change in value of goodwill	-	-	-
Income before tax	**576**	**1,702**	**(66.2%)**
Tax	(26)	(471)	(94.5%)
Net income on discontinued operations	6	(907)	nm
Net income	**556**	**324**	**+71.6%**
Minority interests	87	13	x6.8
Net income Group share	**469**	**311**	**+50.7%**

*2012年度第1四半期は、IFRS第5号に従ったエンポリキ、シュブルー、CLSA の再分類とコンプレックス・デリバティブの一部の評価変更が含まれています。

2013年度第1四半期のクレディ・アグリコルS.A.の**収益**は38億5,300万ユーロに達しました。既存社債の再評価とDay1CVA/DVAを調整後では、収益は42億6,000万ユーロでした。この数値を2012年度第1四半期と比較する場合には、2012年に行われたハイブリッド債の買戻し益8億6,400万ユーロを考慮に入れなければなりません。収益傾向を分析した場合、事業部門の収益は4億7,100万ユーロ(−9.0%)減少しました。リテール・バンキングと資産管理部門の収益は、売却益や引当金の戻入れなどの特殊要因を調整後、同事業部門の堅調な業績や回復力を反映して僅かに増加しました(1,500万ユーロ増)。専門金融サービス(9,600万ユーロ減)とCIB(2億2,800万ユーロ減)の収益は、事業適応計画に採用された通り計画的な業務縮小を反映しています。またCIBは、債券市場が2012年度第1四半期よりも低迷したことによる影響を受けました。

営業費用は28億7,900万ユーロで、2012年度第1四半期比減少しました。第1四半期の課税額が前年同期比2,500万ユーロ増加したにもかかわらず営業費用が減少したことは極めて重要です。当期中費用の有機的減少額は1億2,500万ユーロ、当期の費用ベースの−4.2%に相当しました。この減少に寄与した主な事業部門は専門金融サービス部門とCIB部門で、事業適応計画に沿ってそれぞれの部門で5%、11%の人員削減が行われました。

リスク関連費用は引き続き全体的に抑えられ、2012年度第1四半期比18.9%の7億6,500万ユーロでした。年率では部門残高の68ベーシス・ポイントとなり、2012年度第2四半期と第3四半期とほぼ変わら

ず（それぞれ64、60ベーシス・ポイント）、アゴス―デュカト （Agos-Ducato） の引当金が高かった2012年度第1四半期と第4四半期よりも低い水準となりました。2013年度第1四半期の消費者金融子会社の引当金は2億3,200万ユーロでした。リテール・バンキングのリスク関連費用は想定通りの水準となり、LCLでは2012年度第1四半期の34ベーシス・ポイントに対し、37ベーシス・ポイントとなりました。カリパルマでは2012年度第4四半期とほぼ横ばいの水準でした。CIBのリスク関連費用は28ベーシス・ポイントと低めの数字であり、与信関係費用の殆どは一般引当金として計上されています。

不良債権残高（クレディ・アグリコルの内部取引、未収利息、ファイナンス・リースを除く）は、164 億ユーロでした。不良債権残高が 2012 年 3 月 31 日時点では顧客及びインターバンクのローン残高合計の 3.2%だったのに対し当期は 3.6%でした（エンポリキ、シュブルー、CLSA を除く修正後）。2012 年 3 月 31 日時点では、不良債権が特定引当金の 57.8%（修正後）でカバーされていたのに対し、当期は 57.4%でした。一般引当金を含めた場合の不良債権引当率は 74.9%でした。

関連会社の収益は、3 億 4,700 万ユーロでした。これは主に地域銀行による収益です。

全体的には、2013 年度第 1 四半期のクレディ・アグリコル S.A.の**純利益グループ帰属分**は 4 億 6,900 万ユーロとなりました。既存社債の再評価と Day1CVA/DVA を調整後の純利益は、2012 年度第 1 四半期（既存社債の再評価調整後）が 3 億 2,700 万ユーロだったのに対し、当期は 7 億 2,600 万ユーロでした。

ソルベンシー

ソルベンシーでは、2013 年度第 1 四半期、クレディ・アグリコル S.A.は引き続き本源的な比率を強化しました。第 1 四半期に実行されたエンポリキの連結除外の結果（リスク・ウェイト資産が 155 億ユーロ減少）、2013 年 3 月末現在のクレディ・アグリコル S.A.のコア・ティア 1 レシオは 2012 年 12 月末時点よりも 0.5%上昇する予定でした。

しかし、2013 年にはバーゼル 3 導入に備えて金融コングロマリットに関する暫定的規制が適用されています。保険会社の持分は、以前は資本項目から除外されていましたが、今回より株式に対するエクスポージャー（370%の加重平均率）として分母に算入されています。この規制によってコア・ティア 1 レシオに対し 113 ベーシス・ポイントのマイナスの影響が生じ、コア・ティア 1 レシオはその結果 8.5%に低下しました。これは 2012 年度決算報告で発表された Switch の延長前の低い数値であり、2014 年からは CRD4 規制（バーゼル 3）が適用されます。

2013 年 3 月末現在のグローバル・レシオは、2012 年 12 月末時点の 13.2%、2012 年 3 月末時点の 13.9%に対し、15.1%でした。

流動性

2013年3月末現在のクレディ・アグリコル・グループのバランスシート上の現金（銀行部門）は1兆480億ユーロでした。

当グループが市場のカウンターパーティーから調達した 369 日以内の償還債券の残高に相当する短期債務（レポとリバース・レポの相殺分ならびに中央銀行によるリファイナンス分を除く）は、2013 年 3 月 31 日現在 1,390 億ユーロとなりました。短期資金調達額は第 1 四半期中に 70 億ユーロ増加し、1,780

億ユーロに達しました。一方、バランスシート上の流動資産は当期中に 80 億ユーロ増化し 2,260 億ユーロとなりました。

2013 年 3 月 31 日現在、長期の利用可能な資金に対する長期の資金調達の超過額は、2012 年 12 月 31 日時点より僅かに増加し、480 億ユーロとなりました。また同時点の長期の資金調達源は前期比 90 億ユーロ増の 8,700 億ユーロに達しました。それらは長期の市場資金、顧客関連資金や資本(及び類似項目)からなります。顧客関連資産(トレーディング資産)に関連した資金調達必要額は当期中に 80 億ユーロ増加し、8,220 億ユーロとなりました。

2013 年 3 月 31 日現在の準備金(ヘアーカット後)は、2012 年 12 月 31 日時点(2,300 億ユーロ)とほぼ同様の水準の 2,290 億ユーロでした。同準備金は、短期の市場債務を十分にカバーします(165%)。利用可能な準備金(ヘアーカット後)は、中央銀行でリファイナンス可能な流動性証券が 1,140 億ユーロ、中央銀行への預金が 530 億ユーロ(現金と法定準備金を除く)、中央銀行でリファイナンス可能な資産が 620 億ユーロとなっています。

中・長期の資金調達に関しては、クレディ・アグリコルS.A.は2013年1月1日以降54億ユーロ調達し、2013年の中・長期債発行計画の設定額の45%を達成しました。さらに、支店ネットワークと専門金融子会社が、2013年度第1四半期中に40億ユーロ調達しました。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

2013 年度第 1 四半期のフランス国内のリテール・バンキングは、堅調な業績結果を達成しました。2013 年 3 月 31 日現在の支店ネットワークのオン・バランスシートの預金は前年同期比 5.4%増の 4,162 億ユーロに達し、引き続き力強い展開を見せました。このような好調な業績結果は定期預金口座の伸びを反映しており、新規預金（純額）は 2013 年度第 1 四半期だけで 3.4%増加、前年同期比で 11.6%増加しました。オン・バランスシートの預金の目覚ましい伸びも定期預金口座の増加によるもので、2012 年 3 月 31 日時点比 8.3%増加しました。同時に、オフ・バランスシートの預金もポジティブな市場効果と生命保険に対する関心が再び高まってきたことから前年同期比 1.3%増となり、引き続き回復しています。2013 年 3 月 31 日現在の同預金残高は 3,181 億ユーロに達しました。

ローン残高は2012年度中に1.4%増加しましたが、2012年3月31日時点の水準からは0.4%増加しました。2013年3月31日現在のローン残高は4,831億ユーロとなっています。

2013 年 3 月 31 日現在の預貸比率は 124%で、2012 年度 12 月 31 日時点と同様の水準となり、同年度 3 月 31 日時点比 3%上昇しました。

2013 年度第 1 四半期の地域銀行による営業利益の寄与は 3 億 6,700 万ユーロで、2012 年度第 1 四半期の 3 億 7,200 万ユーロから 1.4%減少しました。第 1 四半期の純利益グループ帰属分は、Sacam インターナショナルへの出資分の減損費用（2012 年度第 4 四半期の引当金に加えて−1,200 万ユーロの追加引当金）と住宅購入貯蓄プランの引当金の影響分を控除後、3 億 4,300 万ユーロとなりました。

2013年度第1四半期のLCLの寄与は前年同期比15.4%減の1億7,200万ユーロでした。住宅購入貯蓄プラン(HPSP)の引当金と2012年度第1四半期に認識されたCheque Image Exchange（CIE）の罰金に対する引当金の戻入れを調整後、LCLの寄与の減少は2.0%になります。

全体では、2013 年度第 1 四半期のフランス国内リテール・バンキング部門の営業純利益グループ帰属分は 2012 年度第 1 四半期比 2.8%減の 5 億 4,700 万ユーロとなりました。住宅購入貯蓄プランの引当金、Sacam インターナショナルへの出資分の減損費用、CIE の罰金の影響を除いた場合、当部門の純利益グループ帰属分は 2012 年度第 1 四半期比 1.6%減少しました。

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q1-13	Q1-12	Change Q1/Q1
Revenues	**3,527**	**3,419**	**+3.2%***
Operating expenses	(1,866)	(1,833)	+1.8%
Cost of risk	(404)	(333)	+21.4%
Operating income	**1,257**	**1,253**	**+0.3%**
Cost/income ratio	*52.9%*	*53.6%*	*(0.7pp)*
Net income accounted for under the equity method (at about 25%)	**214**	**227**	**(5.7%)**
Change in share of reserves	129	145	(11.2%)
Net income Group share (at about 25%)	**343**	**372**	**(7.7%)**

* Sacam インターナショナルへの出資分（－4500万ユーロ）の減損費用とHPSPの引当金を除き、第1四半期は前年同期比+6.6%。

2013 年度第 1 四半期は、地域銀行は引き続き全ての分野でバランスのとれた伸びを達成するという事業戦略をとりました。

貯蓄性預金は力強いペースで伸び続け、顧客預かり資産は前年同期比 3.4%増の 5,753 億ユーロに達しました。この伸びは、オン・バランスシートの預金によってけん引され、2013 年 3 月末現在の同預金残高は前年同期比 5.3%増の 3,343 億ユーロに達しました。オン・バランスシート預金の伸びは、主に定期預金口座（7.0%増）、非課税貯蓄性預金（Livret A と LDD）などの預金口座（12.5%増）などによるものです。顧客預かり資産は、12 ヶ月間で 159 億ユーロの預金を集めました。その中には 2013 年第 1 四半期の 32 億ユーロ（2012 年 3 月末時点比 34.3%増）が含まれています。同時に、地域銀行ではオフ・バランスシートの預金も引き続き堅調な伸びを見せました。2013 年 3 月末現在、同預金残高は前年同期比 1.0%増の 2,410 億ユーロとなりました。この伸びは主に生命保険によるもので、関連した顧客資金は前年同期比 2.7%増加しました。

2013 年 3 月 31 日現在のローン残高は、経済情勢の不確実性を背景に需要が減退したことから、前年同期比僅かに 0.1%増の 3,941 億ユーロとなりました。住宅ローン残高は、2012 年の 1 年間で 2.2%増加した後、当期は+1.5%の伸びに留まりました。

2013 年 3 月末現在の預貸比率は 126%で、2012 年 12 月末時点と同様の水準となり、預金供託金庫（Caisse Des Depots et Consignations）で集中管理化した非課税貯蓄性預金が増加したにもかかわらず、2012 年 3 月 31 日時点比では 3%改善しました。

2013 年度第 1 四半期の地域銀行の収益（グループ内取引修正後）は、2012 年度第 1 四半期比 3.2%増の 35 億 2700 万ユーロに達しました。この増加は、預金残高の大きな伸び、リファイナンス条件の改善、保険事業での収益の伸びによるものです。

2013 年度第 1 四半期の費用の増加は前年同期比 1.8%増に抑えられました。この増加には金融法

改正と年金改革法の一部として 2012 年に制定された新規課税が含まれています。2012 年度第 2 四半期以降、地域銀行の業績結果はこの新規課税に影響を受けています。

2013 年度第 1 四半期のリスク関連費用は、極めて低い水準だった 2012 年度第 1 四半期比 21.4%増の 4 億 400 万ユーロでした。ローン残高に対するリスク関連費用は、2012 年度第 1 四半期と 2013 年度第 1 四半期の間に、6 ベーシス・ポイント上昇しました。リスク関連費用の増加は、一部の地域銀行と幾つかのローンに集中しています。不良債権比率は特に法人向けローンで高くなっており、前年同期比 10 ベーシス・ポイント上昇の 2.5%でした。一般引当金を含めた引当率は、2013 年 3 月末現在 106.7%で高い水準を維持しました。

2013 年度第 1 四半期の営業利益は、営業収益の堅調な伸びがリスク関連費用を相殺することができたため、2012 年度第 1 四半期比 0.3%増の 12 億 5,700 万ユーロとなりました。

2013 年度第 1 四半期の地域銀行のクレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分に対する寄与は、2012 年度第 1 四半期比 7.7%減の 3 億 4,300 万ユーロでした。Sacam インターナショナルへの出資分の減損と住宅購入貯蓄プランの引当金によるマイナスの影響分を除いた地域銀行のクレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分への寄与は、2012 年度第 1 四半期比僅かに 1.4%減の 3 億 6,700 万ユーロとなりました。

1.2. LCL

(in millions of euros)	Q1-13	Q1-12	Change Q1/Q1
Revenues	975	1,012	(3.7%)
Operating expenses	(613)	(616)	(0.5%)
Gross operating income	**362**	**396**	**(8.6%)**
Cost of risk	(89)	(78)	14.0%
Operating income	**273**	**318**	**(14.2%)**
Equity affiliates	-	-	-
Net income on other assets	5	(1)	nm
Change in value of goodwill	-	-	
Income before tax	**278**	**317**	**(12.0%)**
Tax	(97)	(102)	(5.0%)
Net income (after tax) from discontinued activities			
Net income	**181**	**215**	**(15.4%)**
Minority interests	9	11	(15.1%)
Net income Group share	**172**	**204**	**(15.4%)**

2013 年度第 1 四半期は、預金残高が増加し、貸出の伸びが抑えられ、2012 年度と同様な傾向が見られました。

堅調な事業展開にけん引され、顧客預かり資産は前年同期比 4.2%増の 1,590 億ユーロとなりました。オン・バランスシートの預金残高は 2012 年 3 月 31 日時点比 6.0%増加しました。これは主に定期預金

口座の 8.5%の伸びによるものです。オフ・バランスシートの預金は、主に生命保険で資金預金が大きく伸びたことにより、前年同期比 2.3%増加しました(1 年間で+7.3%)。

2013 年 3 月末現在のローン残高は、前年同期比 1.8%増の 890 億ユーロでした。この増加傾向は、主に住宅ローンの増加によるものです(2012 年 3 月から 2013 年 3 月の間に 2.8%増加)。

それに伴い、2013 年 3 月末の LCL の預貸比率は、2012 年 12 月末時点とは同様の水準に、また 1 年前の 116%から 115%へと僅かに改善しました。

2013 年度第 1 四半期の収益は 3.7%減少しました。これには、2012 年度第 1 四半期とは異なり、劣後債券の買戻しによる収益は含まれていません。但し、利ざやはポジティブな傾向を見せました。

2012 年と 2013 年度第 1 四半期の住宅貯蓄プランによる影響と 2012 年度第 1 四半期に計上された CIE の引当金の戻入れの影響を除いた場合、収益は 0.4%の減少になります。

費用は引き続き抑えられ、2012 年度第 1 四半期比 0.5%減少しました。住宅購入貯蓄プランの引当金と CIE 引当金の戻入れを調整後、コスト比率は 2012 年度第 1 四半期とほぼ同様の 62.1%でした。

2013 年度第 1 四半期のリスク関連費用は、2012 年度第 1 四半期比 14.0%増加しました。ローン残高に対するリスク関連費用の比率は 2012 年 3 月から 2013 年 3 月の間に 3 ベーシス・ポイント上昇しました。2013 年 3 月 31 日現在のローン総残高に対する不良債権は、2012 年 3 月 31 日時点と 2012 年 12 月 31 日時点の 2.4%から 2.5%に僅かに上昇しました。2013 年 3 月末現在の引当金比率(一般積立金を含む)は、73.8%でした。

全体では、営業利益は 8.6%減少し、純利益グループ帰属分は 2012 年度第 1 四半期比 15.4%減の 1 億 7,200 万ユーロでした。住宅購入貯蓄プランの引当金と 2012 年度第 1 四半期に計上した CIE 引当金の戻入れを調整後の純利益グループ帰属分は 2012 年度第 1 四半期比 2.0%減少しました。

2. 国際リテール・バンキング

2013 年度第 1 四半期の**純利益グループ帰属分**は、2012 年度第 1 四半期の 8 億 2,900 万ユーロの損失に対し、2,800 万ユーロのプラスとなりました。これには 2013 年 2 月 13 日に売却が完了したギリシャの子会社エンポリキも含まれています。

(in millions of euros)	Q1-13	Q1-12*	Change Q1/Q1
Revenues	**595**	**593**	**+0.2%**
Operating expenses	(386)	(392)	(1.6%)
Gross operating income	**209**	**201**	**+3.5%**
Cost of risk	(197)	(117)	+67.2%
Operating income	**12**	**84**	**(85.8%)**
Equity affiliates	-	24	(98.3%)
Net income on other assets	17	2	x7.7
Income before tax	**29**	**110**	**(73.4%)**
Tax	(1)	(42)	(97.6%)
Net income (after tax) from discontinued activities	3	(904)	nm
Net income	**31**	**(836)**	**nm**
Minority interests	3	(7)	nm
Net income Group share	**28**	**(829)**	**nm**

*IFRS 第 5 号に従ってエンポリキの再分類を修正後。

イタリアでは、厳しい経済環境の中でカリパルマが良好な業績を達成し、十分な経営効率を維持しました。

2013 年度 3 月 31 日現在、オン・バランスシートの預金残高の伸びは支店ネットワークによるマーケティングの努力によって安定した伸びを見せました。2013 年 3 月末現在では同残高は 358 億ユーロに達しました。その大半は中小企業及びスモール・ビジネス・セグメント(SME)に集中しています。同時にローン残高はマーケットが縮小する中で、2.0%減少しました。

2013 年度第 1 四半期の収益は、前年同期比 3.3%減少しました。ローンの組成マージンは持ち直し、手数料は安定しました。費用は同期間で 2.8%減少しました。これは 2012 年度第 1 四半期と 2013 年度第 1 四半期の間の 283 名のフルタイムの従業員の削減とカリパルマの業務プロセスや組織に関連した事業適応計画 を反映しています。2013 年度第 1 四半期のリスク関連費用は前年同期比 44.2%増の 1 億 500 万ユーロで、2012 年度第 4 四半期比では 15.5%減少しました。同リスク関連費用には、想定通り銀行セクター全体で行われているイタリア中央銀行による監査上の要件を満たす引当金の影響は含まれていません。この影響によるリスク関連費用は 3,900 万ユーロで、そのうち 3,500 万ユーロは 2012 年度第 4 四半期にクレディ・アグリコル S.A.のコーポレート・センターが計上した引当金によって充当されています。2013 年度第 1 四半期のカリパルマの不良債権比率は 9.1%でした。これらのローンは一般引当金を含む引当金によって 45.5%カバーされています。

イタリア中央銀行の監査上の引当金調整後、2013 年度第 1 四半期のカリパルマの純利益グループ帰属分への寄与は、2012 年度第 1 四半期比 9.8%減の 2,800 万ユーロに達しました。カリパルマ・グループからの寄与は Calit を含めて 3,800 万ユーロに達しました。

3. 専門金融サービス

専門金融サービス部門はプラスに転じ、2013 年度第 1 四半期の純利益グループ帰属分は 2012 年度第 1 四半期の 2,800 万ユーロの損失に対し、2,000 万ユーロのプラスとなりました。低迷する経済環境において、事業適応計画の一環として当期も取扱高が計画的に制限されました。収益は 2012 年度第 1 四半期比 10.4%減少しました。費用は事業適応計画による影響を受け 5.8%減少しました。リスク関連費用は主にイタリアのアゴスの状況を反映して高水準にありますが、当期は大きく減少しました。

(in millions of euros)	Q1-13	Q1-12	Change Q1/Q1
Revenues	**825**	**921**	**(10.4%)**
Operating expenses	(386)	(410)	(5.8%)
Gross operating income	**439**	**511**	**(14.1%)**
Cost of risk	(430)	(625)	(31.1%)
Operating income	**9**	**(114)**	**nm**
Equity affiliates	6	5	43.2%
Net income on other assets	-	-	nm
Change in value of goodwill	-	-	nm
Income before tax	**15**	**(109)**	**nm**
Tax	(15)	(3)	nm
Net income on discontinued operations	-	-	nm
Net income	**0**	**(112)**	**nm**
Minority interests	(20)	(84)	(76.2%)
Net income Group share	**20**	**(28)**	**nm**

消費者金融では、消費者金融市場の低迷や事業適応計画に沿って採用された対応策の影響を受ける中、事業活動と流動性需要の計画的な減速を反映して、これまでと同様な水準を達成しました。その結果、CACFの連結ベースの消費者信用残高は前年同期比7.7%減少しましたが、2012年12月31日以降僅か0.3%の減少に留まっており、安定しています。2013年3月31日現在の同残高は、2012年12月31日時点の476億ユーロと2012年3月31日時点の510億ユーロに対し、総額で471億ユーロでした。アゴスーデユカト（Agos-Ducato）の消費者信用残高は意図的に抑えられて、1年間で14億ユーロ減少しました。 2013年3月31日現在、消費者信用残高は2012年度12月31日時点比4億ユーロ減となりました。2013年3月31日現在の管理資産は730億ユーロでした。地理的な内訳は前期とほぼ同様で、フランス38%、イタリア34%、その他が28%でした。

CACF の収益は、7 四半期連続で減少しましたが、2013 年度第 1 四半期には利ざやの改善により前年同期比 2.2%増加しました。営業費用は事業適応計画により削減され、2012 年度第 1 四半期比 5.8%減少しました。

イタリア以外では、リスク関連費用は引き続き抑えられました。アゴスを除く CACF が 2012 年度第 4 四半期では 137 ベーシス・ポイントだったのに対し、2013 年 3 月 31 日現在 140 ベーシス・ポイント（年率）となりました。アゴスでは、第 4 四半期に追加引当金が計上された後、リスク関連費用は大幅に減

少しました。2012 年度第 4 四半期の 4 億 1,600 万ユーロ（残高の 341 ベーシス・ポイント）に対し、2013 年度第 1 四半期には 2 億 3,200 万ユーロ（残高の 195 ベーシス・ポイント）でした。

CACF の純利益グループ帰属分はプラスに転じ、合計 850 万ユーロでした。

リース・ファイナンスとファクタリングは、引き続き事業改善計画に従って事業が進められました。全体的な取引高の減少は、利ざやが高かったことによって相殺されました。2013 年 3 月 31 日現在のリース・ファイナンスの残高は、2012 年 3 月 31 日の 179 億ユーロに対し、164 億ユーロでした。ファクタリングでは、2013 年度第1四半期のファクタリング取引量がフランス国内と海外で前年同期比 3%減の 136 億ユーロとなり、2013 年度第1四半期の収益と営業利益は前年同期比 5.8%減少しました。

4. 資産管理と保険

当部門には、資産運用、保険、プライベート・バンキング、資産運用サービスが含まれます。2013 年 3 月 31 日現在、資産運用額は 2012 年 12 月 31 日時点比 250 億ユーロ増加しました。全てのセグメントで 142 億ユーロの新規資金流入（純額）があり、アムンディは 111 億ユーロ、生命保険が 22 億ユーロ、プライベート・バンキングが 9 億ユーロでした。堅調な事業展開に加えて、当部門はマーケットと為替において 108 億ユーロの極めてポジティブな影響を受けました。2013 年 3 月 31 日現在の資産運用額の合計は当期中に 2.3%増の 1 兆 1,094 億ユーロとなりました。2013 年度第 1 四半期の当部門の純利益グループ帰属分は 4 億 300 万ユーロで、2012 年度第 1 四半期比 11.5%の減少でした(同四半期には資産運用部門の売却益 6,000 万ユーロが含まれています)。

(in millions of euros)	Q1-13	Q1-12	Change Q1/Q1
Revenues	1, 275	1, 387	(8.0%)
Operating expenses	(609)	(588)	+3.7%
Gross operating income	**666**	**799**	**(16.7%)**
Cost of risk	(1)	(51)	ns
Operating income	**665**	**748**	**(11.1%)**
Equity affiliates	6	2	x3.8
Net income on other assets	-	-	ns
Change in value of goodwill	-	-	ns
Income before tax	**671**	**750**	**(10.4%)**
Tax	(228)	(241)	(5.1%)
Net income on discontinued operations	-	-	
Net income	**443**	**509**	**(13.0%)**
Minority interests	40	54	(25.4%)
Net income Group share	**403**	**455**	**(11.5%)**

資産運用部門では、アムンディは堅調な事業水準を達成しました。新規資金流入は111億ユーロで、欧州の資産運用の分野ではリーダー的地位を確立しました[1]。当期の目覚ましい業績の結果、アムンディは特にフランス国内のマーケット・シェアを強化し、2013年3月31日現在のフランスでのマーケット・シェアは2011年12月31日時点比2ポイント増の26.7%[2]に拡大しました。新規流入の堅調な伸びは、機関投資家（+107億ユーロ）、法人部門(+28億ユーロ)、ストラクチャード商品以外の全ての資産クラスによってけん引されました。一方、銀行の支店ネットワークからの流出が続き、第1四半期で−24億ユーロに達しました。マーケットと為替の影響は77億ユーロに達し、2013年3月末現在の運用資産は7,462億ユーロになりました。2013年度第1四半期の運用資産は前期比2.6%増、前年同期比8.3%増となりました。アムンディは引き続き国際的地位を高めていくための戦略をとっており、台湾、スウェーデンに新事務所を開設しました。

[1] 出典：Lipper FMI FundFile − 2013年2月28日付。欧州のオープン・エンド型。個別の運用委託契約や個別契約型ファンドを除く。

[2] 出典：ユーロパフォーマンス− 2013年3月31日付。フランスのオープン・エンド型。個別の運用委託契約や個別契約型ファンドを除く。

(in millions of euros)	Q1-13	Q1-12	Change Q1/Q1
Revenues	350	420	(16.7%)
Operating expenses	(192)	(187)	+2.5%
Gross operating income	158	233	(32.2%)
Tax	(57)	(77)	(26.2%)
Net income	108	158	(31.5%)
Net income Group share	79	116	(31.7%)

アムンディにおける2013年度第1四半期純利益は1億800万ユーロ、純利益グループ帰属分は7,900万ユーロと高い水準で業績結果を維持しました。2012年度第1四半期のハミルトン・レーンの売却を修正後の2013年純利益グループ帰属分は、600万ユーロ増加しました。

米国での少数株主持分の売却益6,000万ユーロの例外的項目を修正後、2013年度第1四半期の収益は前年同期比2.8%減少しました。これは主にパフォーマンスに基づいた手数料収入の季節要因によるものです。同期間の費用は2.5%増加しましたが、2012年の後半に制定された課税措置と年金費用を除いた場合は1.2%の増加になります。2013年度第1四半期の営業総利益は前年同期比8.7%減少し、1億5,800万ユーロとなりました。2013年度第1四半期のコスト比率は、2012年度第1四半期の55.0%に対し54.9%と引き続き競争力のある水準を維持しました（両項目は2012年度第1四半期に計上した売却益を修正後）。

資産運用サービス部門では、年初以来**CACEIS**が堅調な伸びを達成してきました。結果的に第1四半期のカストディ―資産は前年同期比7.3%増の2兆5,420億ユーロとなり、資産管理は同期間で16.0%増の1兆2,770億ユーロとなりました。

資産運用サービス部門の収益は2012年度第1四半期から2013年度第1四半期の間に7.2%減少しました。この減少は利ざやの縮小傾向と資金取引における利益が減少したことによるもので、金利低下による不利な影響を受けました。営業費用は厳しく抑えられ、同期間で0.4%の増加に留まりました。コスト比率は71.0%で、2012年度第1四半期比5.3%上昇したものの、資産運用の業界の中では依然として低い水準を維持しています。全体では、2013年度第1四半期の純利益グループ帰属分は、2012年度第1四半期比18.6%減の3,400万ユーロでした。

プライベート・バンキングは景気低迷が続く中で堅調な事業展開を見せました。2013年3月31日現在のプライベート・バンキングの運用資産は1,350億ユーロで、9億ユーロの新規流入（純額）とマーケットと為替要因による影響額19億ユーロによって2012年3月31日時点比4.5%増加しました。

こうした堅調な伸びに加えて、2012年の非中核資産の売却後、中南米以外の全ての地域でプラスの資産流入がありました。その結果、2013年3月31日現在の運用資産はフランスで3.9%増の609億ユーロとなりました。海外の運用資産は、当期中に5.0%増の741億ユーロに達しました。

2013年度第1四半期の収益は、2012年度第1四半期比4.9%増加しました。費用は抑えられました（＋1.3%）。純利益グループ帰属分は2012年度第1四半期比7.5%増の3,600万ユーロとなりました。

保険部門では、2013年度第1四半期の保険料収入は81億ユーロでした。

生命保険では、第1四半期はフランス国内と海外で良好な業績を達成しました。2013年度第1四半期の保険料収入はフランス国内で前年同期比30.7%増の合計57億ユーロに達し、マーケットの平均[1]増加率を上回りました。海外では、保険料収入は同期間で50.4%[2]増加しました。生命保険の管理資産は前年同期比4.3%増の2,282億ユーロ[2]に達しました。同期間のユーロ建て資産は前年同期比4.1%[2]増の1,862億ユーロ[2]に達し、ユニット・リンク型の口座残高は5.5%増の420億ユーロ[2]に達しました。2013年度第1四半期の新規流入(純額)は、フランス国内の19億ユーロを含めて22億ユーロに達しました。

フランスの損害保険では、2013年度第1四半期の保険料収入が前年同期比7.5%増で、同期間のマーケットの平均伸び率3.5%を上回り[3]、引き続き堅調な事業展開を見せました。2013年3月末現在、損害保険の保険料請求に対する支払い件数の割合(全期間、再保険後)は抑えられ、70.5%でした。

今第1四半期の団体信用保険は安定しており、前年同期の保険料収入が2億1,800万ユーロだったのに対し、2億2,000万ユーロでした。

(in millions of euros)	Q1-13	Q1-12	Change Q1/Q1
Revenues	541	575	(5.9%)
Operating expenses	(142)	(127)	+11.9%
Gross operating income	399	448	(10.9%)
Cost of risk	-	(52)	nm
Tax	(144)	(130)	+10.8%
Net income	255	266	(4.1%)
Net income Group share	254	264	(3.9%)

2013年度第1四半期の純利益グループ帰属分は2億5,400万ユーロでした。これにはバーゼル3による規制の下で、当グループの資本構造を最適化するための取引に伴う追加ファイナンス費用が含まれています。取引に関連する費用は収益に認識されており、第1四半期は2,500万ユーロでした。2013年度第1四半期の営業費用は、2012年度第1四半期比11.9%減少しました。2012年度第1四半期のギリシャのPSI(民間部門の債務免除)により生じた損失による税額計算上の一時的な影響分(税控除による恩恵を受け、費用1,200万ユーロを削減)と2012年度第2四半期のBES Vidaの連結除外による影響を修正後、費用は抑えられました。全体では、2013年度第1四半期のコスト比率は26.3%でした。

クレディ・アグリコル・アシュアランスは引き続きフランス国内経済に金融サービスを提供し 、2013年度第1四半期には7億ユーロの革新的な資金融資を含む18億ユーロを投資しました。

[1] 出典:FFSA(2013年3月末現在の数値)。

[2] 2012年の数値は、2012年第2四半期にBESに売却されたBES Vidaを修正後。

[3] 出典:FFSA(2013年3月末現在)。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

2012年に行われたレバレッジ・リスクの軽減のための努力とトップレベルのフランチャイズを通じて、CIBは「Distribute-to-originate」のビジネス・モデルを展開しています。

2013年度第1四半期の**継続事業**の収益*は、前年同期の13億400万ユーロに対し9億9,500万ユーロでした。この減収は、2012年第1四半期の資本市場事業による収益が極めて高かったことによるものです。それにもかかわらず、CA-CIBは堅調に高い競争力を維持しました。

当期の費用は一定の為替レートの下、人員削減及び様々な人件費(給与・賞与)の削減により4.9%減少しました。CIBの同期間のリスク関連費用は、事業残高の28ベーシス・ポイントでした(2012年度第4四半期は33ベーシス・ポイント、2012年第1四半期は16ベーシス・ポイント)。

全体では、CIBの継続事業の純利益グループ帰属分*は、2億2,500万ユーロでした。当期の非継続事業による影響額はごく僅かでした。2013年度第1四半期の純利益グループ帰属分は200万ユーロの損失でした。

継続事業

(in millions of euros)	Q1-13*	Q1-12*	Change Q1*/Q1*
Revenues	**995**	**1,304**	**(23.7%)**
Operating expenses	(627)	(672)	(6.6%)
Gross operating income	**368**	**632**	**(41.9%)**
Cost of risk	(95)	(31)	(x3.1)
Operating income	**273**	**601**	**(54.6%)**
Equity affiliates	34	40	(15.0%)
Net income on other assets	-		nm
Income before tax	**307**	**641**	**(52.2%)**
Tax	(79)	(172)	(54.4%)
Net income on discontinued operations	3	-	nm
Net income	**231**	**469**	**(50.8%)**
Minority interests	6	10	(46.8%)
Net income Group share	**225**	**459**	**(49.8%)**

* 2012年はIFRS第5号に基づくシュブルーとCLSAの計上、事業適応計画とローン・ヘッジを調整後。2013年度第1四半期はローン・ヘッジの影響(収益が+2,500万ユーロ)、IFRS第13号による影響(収益):Day1DVA(+2億5,000万ユーロ)とCVA(-2億9,600万ユーロ);DVA running(+3,300万ユーロ)を調整後。

2013年5月6日、CA-CIBとケプラー・キャピタル・マーケッツ(Kepler Capital Markets)は、クレディ・アグリコル・シュブルーのケプラーへの売却完了を発表しました。CAシュブルーの売却による影響は−1億9,200万ユーロで、これは2012年の業績結果に認識されています。当売却は、2013年度第1四半期の決算には何ら影響を与えていません。

ファイナンス事業

(in millions of euros)	Q1-13*	Q1-12*	Change Q1*/Q1*
Revenues	**478**	**556**	**(14.0%)**
Operating expenses	(233)	(231)	1.0%
Gross operating income	**245**	**325**	**(24.7%)**
Cost of risk	(91)	(27)	(x3.4)
Operating income	**154**	**298**	**(48.3%)**
Equity affiliates	34	40	(14.6%)
Net income on other assets	-	-	nm
Income before tax	**188**	**338**	**(44.4%)**
Tax	(41)	(90)	(54.4%)
Net income on discontinued operations	-	-	nm
Net income	**147**	**248**	**(40.8%)**
Minority interests	3	5	(46.3%)
Net income Group share	**144**	**243**	**(40.7%)**

* 事業適応計画とローン・ヘッジによる影響を調整後。

2013年度第1四半期はローン・ヘッジの影響額（収益で+2,500万ユーロ）。

2012年にポートフォリオと流動性を削減後、ファイナンス事業の収益は減少しました。2012年度第1四半期に売却されたローンの費用3,100万ユーロとローン・ヘッジを調整後（前年同期の1,000万ユーロに対し、2013年度第1四半期は2,500万ユーロのプラスの影響額）、収益は前年同期比14%減少しました。

こうした厳しい状況にもかかわらず、ストラクチャード・ファイナンスは全てのセグメントで堅調に伸びました。商業銀行部門は、低迷する市場でこれまでと同様のポジションを維持しました。その結果、CA-CIBはフランス国内のシンジケーション部門で第1位を維持し、EMEA圏と西ヨーロッパ[1]圏で第3位から第1位に上昇しました[1]。

リスク関連費用は、とりわけ低水準にとどまった2012年度第1四半期と比較すると高い結果となりましたが、これは主に一般引当金の増加によるものでした。リスク関連費用は、前期はファイナンス事業の残高の40ベーシス・ポイントだったのに対し、当期は34ベーシス・ポイント相当でした。

[1] 出典：トムソン・ファイナンシャル。

資本市場及び投資銀行部門

(in millions of euros)	Q1-13*	Q1-12*	Change Q1*/Q1*
Revenues	**517**	**748**	**(30.9%)**
Operating expenses	(394)	(441)	(10.6%)
Gross operating income	**123**	**307**	**(60.1%)**
Cost of risk	(4)	(4)	(2.5%)
Operating income	**119**	**303**	**(60.8%)**
Equity affiliates	-	-	nm
Net income on other assets	-	-	nm
Income before tax	**119**	**303**	**(60.9%)**
Tax	(38)	(82)	(54.4%)
Net income on discontinued operations	3	-	-
Net income	**84**	**221**	**(61.9%)**
Minority interests	3	5	(47.2%)
Net income Group share	**81**	**216**	**(62.3%)**

* 2012年はIFRS第5号に基づくCAシュブルーとCLSAの計上と事業適応計画による影響を調整後。2013年度第1四半期は、IFRS第13号による影響（収益）：Day1DVA（+2億5,000万ユーロ）とCVA（-2億9,600万ユーロ）；DVA running（+3,300万ユーロ）を調整後。

資本市場及び投資銀行部門の収益は、極めてポジティブなマーケット効果の影響を受けた2012年度第1四半期と比較して減少しましたが、2012年度第4四半期比では9.8%増となりました。

債券による収益は、特に債券部門と債券資本市場部門の堅調な業績を反映しており、株式部門もIFRS第5号に従ってCLSAとシュブルーを計上後、ここ数四半期に渡り安定した業績を達成しています。2013年1月1日以降、CA-CIBはIFRS第13号に従って、CVA（Credit Valuation Adjustment：信用評価調整）とDVA（Debit Valuation Adjustment：債務評価調整）を計上してきました。当基準の初めての適用により2013年1月1日時点で、CVAは-2億9,600万ユーロ、DVAは2億5,000万ユーロの影響が生じました。第1四半期のDVA runningは3,300万ユーロでした。資本市場及び投資銀行部門の損益計算書はこれらの項目を調整の上表示してあります。

また、仕組み債の発行スプレッドの再評価は、以前は資本市場及び投資銀行部門に計上されていましたが、現在はコーポレート・センターに計上されています。

2013年3月31日現在の最大損失予想額（VaR）は1,000万ユーロに抑えられ、引き続き低い水準となりました。

非継続事業

(in millions of euros)	Q1-13	Q1-12*	Change Q1/Q1*
Revenues	**54**	**20**	**x2.7**
Operating expenses	(43)	(81)	(47.0%)
Gross operating income	**11**	**(61)**	**nm**
Cost of risk	(18)	(12)	52.9%
Operating income	**(7)**	**(73)**	**(90.2%)**
Equity affiliates	-	-	nm
Net income on other assets	-	-	nm
Income before tax	**(7)**	**(73)**	**(90.2%)**
Tax	3	25	(87.1%)
Net income on discontinued operations	-	-	-
Net income	**(4)**	**(48)**	**(91.9%)**
Minority interests	(2)	(12)	(83.7%)
Net income Group share	**(2)**	**(36)**	**(94.7%)**

*事業適応計画の影響額を調整後。

非継続事業の収益への寄与はプラスとなりました。第1四半期の収益は事業適応計画の下で非継続事業に再分類されたビジネスの2,000万ユーロを含めて、5,400万ユーロに達しました。

費用は、CIBが撤退した部門の人員削減によって大幅に減少しました。

全体的に、第1四半期の非継続事業による影響は純額でごく僅かとなりました。

6. コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q1-13	Q1-12*	Change Q1/Q1
Revenues	**(878)**	**(499)**	**+76.3%**
Operating expenses	(215)	(225)	(4.9%)
Gross operating income	**(1,093)**	**(724)**	**+51.0%**
Cost of risk	65	10	x6.2
Operating income	**(1,028)**	**(714)**	**+44.1%**
Equity affiliates	(42)	(28)	+56.8%
Net income on other assets	(2)	(6)	(70.2%)
Income before tax	**(1,072)**	**(748)**	**+43.7%**
Tax	390	224	+74.6%
Net income on discontinued operations	-	(1)	nm
Net income	**(682)**	**(526)**	**+30.2%**
Minority interests	51	46	+8.8%
Net income Group share	**(733)**	**(480)**	**+28.4%**

* 2012年は2012年度第1四半期のハイブリッド債買戻しの影響を調整後。

2013年度第1四半期の収益は、主にCA-CIBとユニット・リンク型の保険契約の発行スプレッドによるマイナスの影響額計3億6,100万ユーロ（前年同期は2,500万ユーロの損失）と、liquidity marginの費用の増加を反映しています。また同収益は、クレディ・アグリコル・アシュアランスが2012年12月に発行したハイブリッド債（2013年度第1四半期以降は四半期ごとに2,500万ユーロ）の17億ユーロのクレディ・アグリコルS.A.による引受に関連する金利収入と、バンキンターの持分売却による売却益3,200万ユーロが含まれています。営業費用は、クレディ・アグリコルS.A.の人員削減により2012年3月末から2013年3月末の間に4.9%減少しました。リスク関連費用は、イタリア中央銀行によるカリパルマの監査に関連して2012年度第4四半期にコーポレート・センターの勘定に計上された3,500万ユーロの引当金の当期の戻入れを含んでいます。

全体では、2013年度第1四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期の-4億8,000万ユーロに対して、-7億3,300万ユーロとなりました（2012年度第1四半期に認識されたハイブリッド債の買戻し益を除く）。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2013年3月31日現在の当グループの顧客ローン残高は7,290億ユーロでした。資金調達源では、オン・バランスシートの顧客預かり資産は6,390億ユーロに達しました。

2013年度第1四半期のクレディ・アグリコル・グループの収益は、2012年度第1四半期比14.1%減、2012年度第4四半期比5.3%増の76億3,400万ユーロでした。この変化の一部は、事業適応計画に沿った収益の減少に起因し、主に事業活動とは関連のない項目によるものです（2012年のハイブリッド債の買戻し益のプラス影響額と発行スプレッドと2013年のCVA/DVAのマイナス影響額）。

2013年度第1四半期の費用は前期比7.6%減少、前年同期比1.5%減少しました。

2013年度第1四半期のリスク関連費用は、前年同期比8.2%減少しました。

2013年度第1四半期の非継続事業の純利益は僅かな金額ですが、2012年度第1四半期はエンポリキの業績結果を含んでいます。

全体では、2013年度第1四半期の**純利益グループ帰属分**は、既存社債の再評価とCVA/DVAを除いて12億8,700万ユーロでした。これらの変動的要因を含めた場合、同純利益帰属分は前年同期比18.7%増の10億2,500万ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q1-13	Q1-12*	Change Q1/Q1*
Revenues	**7,634**	**8,887**	**(14.1%)**
Operating expenses	(4,926)	(5,002)	(1.5%)
Gross operating income	**2,708**	**3,885**	**(30.3%)**
Cost of risk	(1,179)	(1,284)	(8.2%)
Operating income	**1,529**	**2,601**	**(41.2%)**
Equity affiliates	29	63	(53.3%)
Net income on other assets	21	(4)	nm
Change in value of goodwill	-	-	nm
Income before tax	**1,579**	**2,660**	**(40.7%)**
Tax	(481)	(877)	(45.1%)
Net income (after tax) from discontinued activities	6	(906)	nm
Net income	**1,104**	**877**	**+25.8%**
Minority interests	79	14	x5.6
Net income Group share	**1,025**	**863**	**+18.7%**

*2012年度第1四半期は、IFRS第5号に従ったエンポリキ、シュブルー、CLSAの再分類を修正後と一部のコンプレックス・デリバティブの評価変更を含む。

*****

Crédit Agricole S.A.'s financial information for the first quarter 2013 consists of this press release and the attached presentation. All regulated information, including the registration document, is available on the website www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders under "Financial information" and is published by Crédit Agricole S.A. pursuant to the provisions of article L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation).

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber	**+ 33 (0) 1 43 23 26 78**	**Laurence Gascon**	**+ 33 (-0) 1 43 23 38 63**
Nathalie Auzenat	**+ 33 (0) 1 57 72 37 81**	**Fabienne Heureux**	**+ 33 (0) 1 43 23 06 38**
Sébastien Chavane	**+ 33 (0) 1 57 72 23 46**	**Marie-Agnès Huguenin**	**+ 33 (0) 1 43 23 15 99**

Disclaimer

The figures presented for the three-month period ending 31 March 2013 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date. This financial information does not constitute a set of financial statements for an interim period as defined by IAS 34 "Interim Financial Reporting" and has not been audited.

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, §10).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore,these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections.

Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market values and asset depreciations.

Readers must take all of these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.